

## エゾアカガエル (*Rana pirica*) 幼体の越冬環境確認一例

駒澤正樹

北海道爬虫両棲類研究会会員

### An example of the wintering environment confirmation of juvenile *Rana pirica*

By Masaki Komazawa

#### 序 文

エゾアカガエル (*Rana pirica*) の越冬は、沢などの流水域やそれが流れ込む止水域で行なわれると考えられるが、その環境で見つかる多くは成体で、個体数が圧倒的に多いはずの幼体が確認されることはあまりない。

おそらく成体とは異なる環境で越冬していると思われ、今回、春季に越冬している幼体がまとまって見つかったので報告する。

#### 調査内容結果

場所は旭川市江丹別の山地に流れる小さ

な沢（谷部）、標高は220m。調査日は平成24年5月11日で、付近の平地ではエゾアカガエルやエゾサンショウウオの産卵は始まっていたが、調査地は標高が高いため雪が所々残っており、産卵は始まっていなかった。（図1）

沢の両側は粘土質と礫の混じった層が露出する急な斜面で、未だ凍結している個所が多く、一部わずかに伏流水が染み出ている場所もあった。土は伏流水の影響で流れ出て、礫のみが積み重なった層となっており、礫の大きさは大小様々で統一性はなかったが、礫層の隙間は狭かった。（図2）この礫層を横に



図1. 雪が残る山地の谷部(旭川市江丹別)



図2. 沢脇斜面から伏流水が染み出している礫層  
(旭川市江丹別)

## 12 エゾアカガエル (*Rana pirica*) 幼体の越冬環境確認一例



図3.掘り出した幼体1(旭川市江丹別)



図4.掘り出した幼体2(旭川市江丹別)

30~50cmほどスコップで掘り進んでいくと、エゾアカガエルが次々に現われ、合計5個体出てきた。全て体長25~30mmほどの同サイズで、幼体と思われる。(図3、図4)これらは密集しておらず、それぞれ散らばった状態で見つかった。各個体の動きは鈍く、飛び跳ねて逃げることはなかったが、しばらくすると礫下へ潜り込んで身を隠した。

また、平成24年5月18日、旭川市江丹別の同様の環境で幼体2個体を確認できた。

### 考 察

今回の環境は山地特有の環境で、平地では同様の環境がないため、全ての幼体がこの環境で越冬するとは考えられないが、平成23年11月末に平取町の同様の環境でもエゾアカガエルの幼体を1個体掘り出しているので、越冬場所のひとつである可能性が高い。

土中の伏流水が流れる層は、水温が安定しており、深い位置は凍結する事が少ないので

越冬場所に適していると思われるが、逆に浅い位置や伏流水の水量が少な過ぎると凍結して越冬失敗してしまう危険がある。

また、礫間が狭いので、入り込めるサイズが限定されることを考えると最適な越冬環境とは言えないかもしれない。

アマガエルやトノサマガエルのような土中越冬にも見えるが、伏流水に依存しているので水中越冬に近いのではと考えられる。

佐藤・中林(2012)によって晩秋に越冬直前の幼体が湧水口のある土中と、湧水が湿原に向かって絶えず流れる場所から確認され、越冬を示唆しているが、今回の確認は春季であり、類似の環境にて幼体が厳冬期も越冬している可能性は高いと考えられる。

今後も晩秋～早春に調査を進めることで、エゾアカガエルの越冬環境を解明していきたい。

### 引 用 文 献

佐藤孝則・中林成広. 2012. 北海道釧路湿原に生息するエゾアカガエルの越冬場所. 爬虫両棲類学会報 2012(1) : 80.